■「暮らしの質」向上検討会第三分科会（第一回会合）の整理

参考資料7

# すべての女性が輝く社会づくり

## ~子どもが世界一幸せな国づくりを目指して~

### 高度成長期の成功体験を超えて

ここ最近の環境学や経済学の多くのテキストには、「環境」と「社会」、「経済」が、3つのリングで鼎立している社会構造の図が描かれています。しかし、この模式図を肯定した時、「経済成長のために、自然生態系の破壊も止むを得ない」といった「カニバリズム」が必ず起こります。

実は、真実の社会構造とは、まず自然生態系としての「環境」があり、そこにコミュニティとしての「社会」が内包され、その社会を動かすエンジンの一部として「経済」が位置づけられる、3つのリングの入れ子構造で描かれるべきものです。

### 多様な価値観を尊重する社会を

すべての女性が輝く社会づくりにおいても、行き過ぎた経済優先の価値観や、山登り型成長への過度の期待を改め、自然に癒される環境づくり、多様な価値観を尊重する社会、お金がなくてもQOLを満たせる家庭、心のつながりのある健康的な個人生活、そして柔軟な働き方を可能にする経済活動の重要性を、改めて考えるべき時代を迎えています。

関連した興味深いデータもあります。東北大学大学院環境科学研究所は、東日本大震災以降、日本人の嗜好調査を行い、最も大切にする価値と消費投資額を相関させた調査結果を発表しています。それによれば、低所得層は「ものやサービスの利便性や効率性」を、中所得層は「ものやことへの主体的参画」を、高所得層は「自然に癒され、包まれる暮らし」、を求めていることがわかります。

利便な暮らしに反応するのは、直言すれば、心とお財布が貧乏な人々だけなのだということです。

### 子どもを生み育てやすいキッズデザイン

ユニバーサルデザインの世界でも、こうした根源的な価値観の拡がりを満たす、新たなアプローチが台頭してきています。高齢者、障害者、健常者が使いやすいものづくりだけを追求してきたこれまでに対し、子どもがユーザーではない商品や施設、サービスであっても、子ども目線、子ども基準で安心、安全や、子どもたちの創造性の陶冶に配慮する、日本発の「キッズデザイン」が、欧米でも注目されるようになりました。

### インクルーシブ・コミュニティの実現

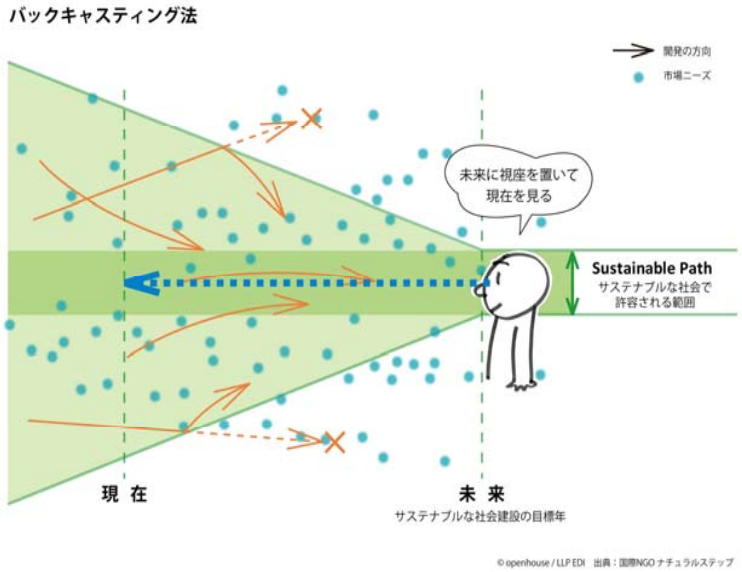
また、全盲の視覚障害者の優れた触覚に着目し、障害者と共に開発した優れた肌触りと風合いを持つタオルが、国内外で大反響を呼んでいます。こうした障害者や高齢者、子供たちとの参画型のものづくりは、「インクルーシブデザイン」と呼ばれ、これからのユニバーサルデザインの範となっていくことは確実です。

バリアフリー社会を越えて、異質を尊重し、協働を行う「インクルーシブ・コミュニティ」の実現が今、求められています。

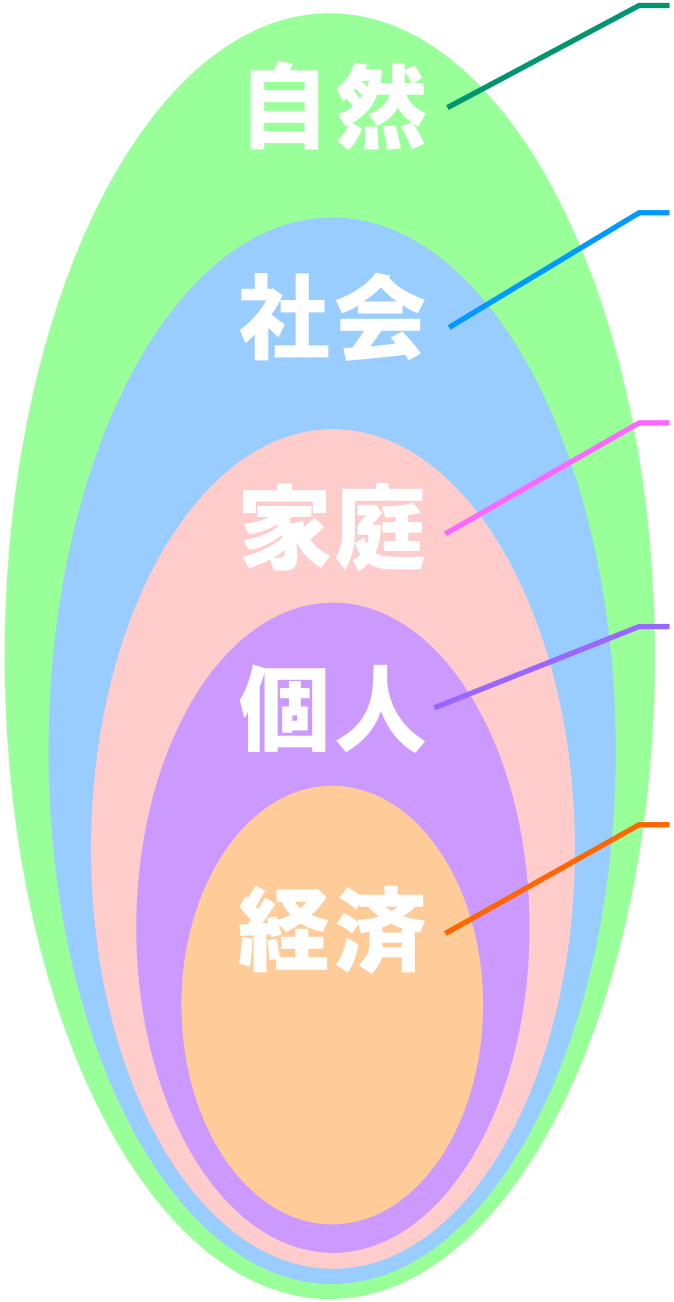
### バックキャスティングによる未来

「暮らしの質」向上検討会第三分科会では、その第一回会合において、各委員、並びに内閣府の事務局メンバーを交え、「理想とする社会」と「それを阻むギャップ」について、バックキャスティング手法に基づくワークショップを開催しました。

以下、その概要を模式図にまとめ、第二回目以降の議論のためにそのエッセンスを共有したいと思います。



## ■ 抽出された理想的な社会像




**自然に包まれ、癒される持続可能な循環型社会**

- ●再生可能資源の循環利用
- ●生態系と生物多様性の保全
- ●自然とともに生きるまちづくり

⇔ コンパクトシティ

**多様な価値観を尊重する機会差別のない社会**

- ●インクルーシブな参画の推進
- ●多様な選択肢のある社会づくり
- ●弱者を優先する制度づくり

⇔ 地方分権

**知恵と文化が継承される世代間交流のある社会**

- ●子どもを生みたくなる環境整備
- ●文化と生き方の世代間継承
- ●日本の良さが磨かれる社会づくり

⇔ 少子・高齢化対策

**健康寿命を延伸する安心、安全で快適な社会**

- ●健康的な食文化・食習慣の確立
- ●自然治癒力と予防医学の向上
- ●真の心のつながりがある社会づくり

⇔ 健康長寿社会

**子育てと仕事が共存できる柔軟な働き方ができる社会**

- ●誰もが働ける社会づくり
- ●家業とマイクロビジネスの復権
- ●職業教育・生涯学習の充実

⇔ 地方創生

⇕

**民間活力の活用**

文責●第3部会長/赤池 学 ㈱ユニバーサルデザイン総合研究所所長